

平成 26 年度 西小学校区 第 2 回きずなづくりトークまとめ ～仮称：地域コミュニティ連絡会～

10月3日(金)に開催された「西小学校区第2回きずなづくりトーク～仮称：地域コミュニティ連絡会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。まとめができましたので、送付いたします。
(市のホームページにも掲載)

問合せ 地域安全課 きずなづくり推進室 (電話 9 8 3 - 2 7 0 8)



ご参加ありがとうございました。

【当日参加団体一覧】

団体名		
加屋町自治会	広小路町自治会	市立緑町佐野保育園
清住町自治会	泉町自治会	消防団第1分団
三好町自治会	寿町自治会	西小学校
西本町町内会	本町大中島自治会	南中学校
栄町自治会	交通安全母の会	地域包括支援センター三島
西若町自治会	スポーツ推進委員	栄町子ども会
緑町自治会	民生委員・児童委員	寿町子ども会
南町自治会		

※当日参加者 23 名

会場アンケート：「テーマ別会議」「協議会設立」について、
参加者の意向を伺いました。



【会場アンケート結果】

テーマ別会議
①小単位（組や近所）での防災への取組みを強化する方法を考えよう！・・・8人
②子ども・女性の声を取り入れた訓練内容を考えよう！・・・・・・・・・・3人
③地域のコミュニケーションを広げていく場づくりを考えよう！・・・・12人
④その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・0人

※会場アンケートの結果、③について全員で話し合いました。（裏面「テーマ別会議まとめ」参照）

協議会設立の意向
①協議会に向けた取組みを進めたい・・・4人
②連絡会を継続したい・・・・・・・・・・11人
③その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・7人

テーマ
地域のコミュニケーションを広げていく場づくりを考えよう！


●コミュニケーションを広げていく場づくりについて、参加者全員のご意見・ご提案をまとめました。

★ そもそもの問題点・背景 ★

- ・組長が1年交代で変わるため、コミュニケーションに対する持続性がない。
- ・子どもの数が少ないので、対策が立てられない。
- ・全員参加が当たり前でなくなった。(生活スタイルの変化)
- ・親が子どもの行動を決めてしまう。子ども会に入らない。
- ・自治会で既にいろいろやっている。同じ人しか参加しない。今の状態で限界。
- ・新しい意見、パワーが必要。

★ 高齢者の基準に関する意見

- ・老人(要援護者)の基準を再考
- ・独居老人基準 65歳→80歳へ
- ・要援護者対象者が減る。
⇒把握しやすくなる。
⇒自治会の負担軽減につながる。


まずは「情報の整理」と、「情報発信を強化」しよう 

★ 情報収集・話合い

- 場づくりの先進的な地域があるなら、そこを見習うなり、情報をもらう。
- どのような場があるか募る。
祭り、ラジオ体操、運動会、バス旅行等→フリーディスカッションが必要では？

★ 広報・PRの強化

- 回覧板は見ていない人がほとんど。
- 各種団体の活動状況を記した回覧物等を発行し、参加者を募る。
- 自分の地域をPR
- 地域の自慢、地域を自慢

日ごろのコミュニケーションから広げよう 

★ あいさつ

- コミュニケーションにつながる。
- すれちがった時のあいさつ
- 登下校時の声かけ

★ 声かけを続ける

- 大人からの声かけを続ける。
＝「いつも見守っているよ」ということ。
- 域の行事へお誘い一園で紹介
- 地域参加は近所への声かけから。
⇒参加率 UP 効果的

子どもを通じて広げよう



★子ども×高齢者

- 子どもと老人が集まれる場
- 老人会と子ども会。同時に集まれる場
- お年寄りと子ども達のふれあいの場
- 「子どもは地域の宝物」事業がある。敬老の日には「高齢者は地域の宝物」みたいな行事をやる。子どもとの交流など。

★子ども会を取り込む

- 子ども会とのつながり大切
⇒将来は自治会、老人会へ。
- 子ども会活動を活発にする。若い父母、子どもに将来があり、末長いコミュニケーションになる。
- 子どものいる家庭の自治会(子ども会)離れをなくす。

★子ども×防災

- 第1分団では小学校に出向き、放水訓練実施
- 小、中、高校生の防災意識UP
- 幼年消防クラブから続くものを作る！

★小学校を軸に世代間交流

- 学校を交流の場(中心)に。
- 地域の人から学ぶ(人、歴史、自然)
- 学校支援地域本部。地域の方の協力をお願いしたい。

★中学生ボランティアを組織する

- 地域のために何ができるか、子どもが自主的に考える。
- 中学生の地域ボランティアチームを作る。(小学校ごと)
- 古紙回収に中高生を入れたらどうか。

施設や行事を活用して広げよう



★施設を活用する

- 自治(町内)会館の活用によって、コミュニケーションを作る。
- 地域包括支援センターなど相談機関を周知。
- 「本町子育て支援センター」を住民全てに周知する。親だけでなくおじいちゃん、おばあちゃんも同行してください。

★サロンを作ろう

- 気軽に立ち寄れるサロンを立ち上げる。
- 要介護施設に行くほどではない人(高齢者)が集える場所も必要。
- 話を気軽に出来る場所。
- 空き家が目立つ。その土地を利用できるようになれば、子どもの遊び場・コミュニケーションの場(外遊びの場)に出来ないでしょうか？

★新イベント・新行事を開催

- 全町内が参加する新しい行事を計画する。(どんど焼きなど)
- 若人会を作る(責任者いない?)

★既存の行事・団体を活用する

- お祭りのしゃぎりの稽古を利用して、コミュニケーションを図る。
- しゃぎり保存会に中高生参加を求める。
- しゃぎり保存会を青年部にして、自治会の活動に参加。
- 運動会、防災訓練
- 河川の清掃管理をきめ細かく行う。
- 地域は自分達で守る。消防団OBは地域防災でも役立つ。
- 青年会活動。「火の番」町内の方に大変感謝されている。

★ラジオ体操に行く

- ラジオ体操を多くの地域で行う。参加する。
- 防災訓練、運動会、祭りなどは年1回で、コミュニケーションはなかなか取りにくい。ラジオ体操ならば雨以外の日は行うので、コミュニケーションが取れる。